

心の歌「花」

本時の目標

情景を思い浮かべながら、言葉を大切にしてお歌おう。

【花を聞いてみよう！】

教育芸術社 HP を参考にしてください。歌える人は歌ってみよう！

【歌詞で使われている言葉の意味を書きましょう】

この楽曲の歌詞は少し古い日本語が使われています。現代の言葉に直してみよう！

- | | | |
|----------|------------|---|
| 【①うらら： | 】【②權： | 】 |
| 【③たとうべき： | 】【④見ずや： | 】 |
| 【⑤あけぼの： | 】【⑥錦おりなす： | 】 |
| 【⑦長堤： | 】【⑧くるれば： | 】 |
| 【⑨げに： | 】【⑩一刻も千金の： | 】 |

	歌詞	歌詞の大意（教科書を参考に自分の言葉で作ってみよう）
1 番	春のうららの隅田川 のぼりくだりの船人が 權のしずくも花と散る ながめを何にたとうべき	例：春の柔らかい日差しを受けている墨田川 舟人が舟に乗って行ったり来たりしている 權（船をこぐオール）から飛び散る水しぶきがキラキラしていて、 まるで舞い散る花びらのようだ この美しいながめをなにに例えたらいいのだろうか（何にも例える ものが思い浮かばないほど美しい景色だ）
2 番	見ずやあけぼの露浴びて 我にもの言う桜木を 見ずやたぐれ手をのべて われさしまねく青柳を	⑪
3 番	錦おりなす長堤に くるればのぼるおぼろ月 げに一刻も千金の ながめを何にたとうべき	⑫

【花ってどんな曲？】

この曲の作曲者の滝廉太郎は、明治【⑬】年に現在の東京都に生まれ、東京音楽学校（現在の東京芸術大学）で西洋音楽を学びました。将来を嘱望されドイツに留学しますが、結核という病気のために帰国し、23歳という若さで亡くなりました。当時結核は不治の病で、感染の恐怖から死後多くの楽譜が焼却されてしまったそうです。現存している「荒城の月」「お正月」「箱根八里」などは現在でも広く愛されています。「花」は明治33年（1900年）発表の歌曲集「四季」の中の1曲で、他の曲には「納涼」「月」「雪」という題名がつけられています。「花」では、【⑭】川の美しい情景や川辺で暮らす人々の様子が華々しい旋律で巧みに表現されています。歌詞は七五調という常に七音と五音が交互に繰り返される形になっており、日本語が美しく響くリズムが活用されています。

